

# ORERO通信 No.44



## PEACERUNO3特集



KOBE FREE SCHOOL

# 素敵な選択肢：不登校

代表 田辺克之

「こんなに不登校が楽しいものかと思えるようになってのは、ここ数年のことである。自分の息子健太が「お父さん、算数の時間がだるいわ」と小学校3年生から登校をしぶり、小4のときフリースクールの仲間の前で登校拒否宣言をしてから13年が経った。最初は彼がどう歩んでいくのか予測もつかず、身内のものは猛反対で、僕にも自信などなかった。しかし20歳をすぎた健太を見ていて、僕はひそかに思っている「もし生まれ変わったら、きつと不登校しよう」と。それほど不登校とは魅力的で素敵な選択肢だと今なら自信をもって言える。我が子が不登校になつて相談に訪れる保護者のみなさんに「ラッキーですね。」と僕は話す。学校という大人が作り上げたシステムには乗っからず、違

未知なる道を歩きだそうというのだから、しつかりエールを送り、よき協力者になつてくださいと勧めて

いる。「もし森で迷ったら馬を放て」と言った人がいるが、だれも歩いたことのない道だから大人は道案内人になれない。不登校が目新しいというのではない、50年前に僕も不登校を経験したが、行きたいのに登校できないという状況だった。息子たちのように行けるのに登校しないというような主体性はなかった。学校をこんなに平気で捨てることはできなかった。もしかして彼らは狂気かそれとも天才か、まわりの大人たちは常識や古い価値観から逃れることができず、とてもそんな大胆な決断はできない。しかし彼らはそれをたいしたことだとは思っていない。いや楽しんでるようにさえ見える。迷ったり、悩んだりしながらでも自分で道を切り開いていこうとしている、大人の力を借りないで！僕ら大人に道案内はできないけれど、精一杯エー

ルを送りつづけたい。

(ぎっくり腰)

今年10回目のピースラン、神戸からスタートして、姫路、赤穂、倉敷と順調だったのに、最後の福山で準備操中に「ギクツ」ときなり、腰を伸ばせない状態になり、走るところか足をひきずらないと歩けなくなってしまった。「ああこんなことは10年間一度もなかったぞ」と叫んでしまった。まだまだ若い59歳。ここにきてそろそろからだを勞われとでもいうのか、「あほか、これからやろ」と自分に言い聞かせて、三原にある小佐木島に渡り、あの熱いコンテナにさわり、殺された少年のことを想って追悼会を行った。そして、10年間走り続けてよかったと思った。ピースランがあったからフリースクールも続けられたような気がする。スバルタ教育の名の下に子どもたちはくさりでつながら、皮膚もこげる真夏のコンテナの中に押し込め

られ、犬食いを強制された。不登校という選択が拒否され、不登校ゆえに人間扱いされず、傲慢な大人に殺されてしまった少年たち。コンテナの前に立つたびにくやししい重いがこみあげてくる。

ぼくはこの事件を忘れない。こんなことが二度と起こらないように、起こさないようにという思いでフリースクールを続けてきたように思う。でもこの体では来年はどうだろう、10年ていつたんピリオドを打とうかなどと弱気になつていたが、婦神して接骨院に通い、すこしずつ回復してくると、また来年のピースランのことを考えている。

( 畑の番人 )

いまフリースクールの隣の畑は、季節遅れのひまわりが咲き乱れ、「ケナフ」は4メートルを越す成長ぶり。ナスやきゅうりやミニトマトは終盤を迎え、シソは種をつけばじめた。ハーブやオシロイバナの勢いは衰えず、テントをはずしたあ

とに植えた芝生も元気であ  
る。紫色の可憐な花をつけ  
る「十二単」を株分けして  
たくさん鉢に植えかえ、  
近所の人に配ったりしてい  
る。畑の片隅にある「ねこ  
小屋」で生まれた子ねこに  
缶詰のえさをやったり、雑  
草を抜いたり、階段を補強  
したり、水仙の球根の株分  
けのことを考えていると、  
1日があつたというまに過ぎ  
ていく。フリースクールの  
子どもたちは思い思いに自  
主的に活動しているので、  
日常的なかかわりは健太や  
スタッフが十分動いてくれ  
て、ほとんど僕の出番はな  
い。ぎっくり腰から狭い部  
屋にいるのが大儀になつて  
いまや僕はまるで畑の番人  
のようなものである。たま  
に訪問客があつても、畑の  
涼しいパラソルの下で面接  
し、電話がかかってくると  
子どもが電話の子機を畑に  
とどけてくれる。

あまり物事をよくよく考  
えることもなく、ゆつくりと  
一日が流れていく。フリース  
クールをはじめて14年  
目、今までこんなに静かな  
日があつただらうかと思い

起こしている。阪神大震災  
で全壊してからは、物にそ  
れほど拘泥することもなく  
といつてもほどほどに人間  
くさくさしている。子ども  
もが主人公で、たつぷりの  
時間を豊かに使えるフリース  
クールが誕生しつつある  
ように思う。





## ちっちゃな仲間の でっかい行事

### ピースラン03実行委員会

2003年8月4日(月)から9日(土)まで、広島の小佐木島を目指して、今年もピースランが開催。年齢差、体力差があるなかみんな気遣いあって、楽しく完走。

#### (ピースラン初日)

8月4日、午前8時。神戸ハーバーランドに集合。みんな元気な姿をみせ、予定通り午前9時に神戸を出発、ランニング開始。須磨では昼食後、海に足をつけて遊び、踏切に花をささげて石坂さゆりさんの追悼式。その日の宿舎は、姫路にあるらんちゃん宅の興宗寺。夕食後、らんちゃんのパパが影絵と人形劇を披露。

#### (ピースラン2日目)

姫路から御津町の「風のモニュメント」まで走り、午後から赤穂野外キャンプ場をめざす。宿舎は洗濯物で「満艦飾」。夕食は杉浦さんと水本さんが担当して

くださり、子どもたちの食事班も手伝って楽しい食事の時間をもつ。夜はキャンプファイアーで盛り上がり、遅くまで花火に興じた。

#### (ピースラン3日目)

8月6日。赤穂から日生へ、そして山越えをして岡山へ。宿舎は倉敷ユースホステル。

#### (ピースラン4日目)

8月7日。午前9時YHを出発して、福山のフリースペース「旅遊」を目指す。走ったり歩いたり車にのったりしてやっとたどりついた「旅遊」では、あたたかい歓迎を受け、にぎやかな交流の夕べに。

#### (ピースラン5日目)

8月8日。昨夜降り続いていた雨もあがり、福山をスタート。尾道、三原を目指す。途中台風10号の接近で激しい雨の中をびしょぬれになって走った。午後4時過ぎ、全員無事三原に到着。宿舎を準備して待っていてくれた沖村さんの熱い歓迎を受け、走り終えた開放感も手伝って涙の握手。(ピースラン最終日)

三原から渡船で小佐木島へ。

コンテナで亡くなった14歳と15歳の少年少女の追悼会を行った。この日もコンテナの屋根はとても熱かった。

#### コンテナをあとにして海

辺に移動。昼食をとり、心ゆくまで今年も小佐木の海で遊んだ。

(※スタッフおくちゃんの原文から抜粋して掲載。原文はKFSHPオーレロ通信44号にて)



## 「呪文」

酒井真吾 (18)

この度、メンタルフレンドの烈くんから誘いをもらい、飛び入りで参加した酒井真吾です。

突然ですが、僕は自分でも情けなくなるくらい自分に自信がありません。こう言い切ると実はあるように思うかもしれませんが、本当にありません。自信がないから自分を好きになれず、自分を好きになれないから何の面白味もない人になってしまふ・・・なんてこんなどうしようもない者になってしまったのか、この際ただ走るだけじゃなく、ゆっくり考えてみようと思っていました。

ところが実際の話、それどころじゃなかったのです。走っているときなんて、「早く着いてくれー」と呪文のように何度も思い、滴れ落ちる汗をタオルに染み込ませ、その抜けた水分を水で補い、沸騰しそうな体を団扇で扇ぐ。そんな足以上に手を動かさなくてはやっていけないくらいだったのだから。

そんな中、フリースクールのみんなにはいろいろと救われました。みんなの元氣さ、パワフルなどどこに何度圧倒されたことか。それぞれ個性があつて輝いているみんなといったしよの日々を過ごすうちに、自分も何か見えないものをもらつたような気がします。

そのおかげです、こんな弱々しい僕でも三原まで完走でき、いろいろなことが詰まつた1週間を無事乗り切ることができたのは。

そしてピースランが終わつた帰り、駅でいつものバスを待っていると、どこか自分が強くなつたような気がした。

自信っていうのは、つくのではなく、つけるものなのか。なあとそのときふと思つた。

そもそも僕は、自分を好きになろうとしてなかつたのじゃないかとも思う。

パクリですが、無事ピースランを終えたことに、自分で自分を褒めたいです。

最後に、仲間に入れてくれたみんなに、そしてきっかけをくれた烈に感謝します。ありがとう！



## 「第3章なつ」

大森愛依 (14)

また、いじめについて考える夏がきた。

ピースランへの出発だ。約10年前小佐木島には、風の子学園という所があった。2人の生徒がコンテナに閉じ込められて、死んだ。毎年その2人の苦しみを、知るため私たちは神戸から広島まで走るのだ。今年もその夏がやってき

た。  
「メイ今年は何キロ走つたん」  
「100キロ弱ぐらいとちやう」

「メイ走つてる時何考えてるん？」  
正直、私は何も考えていない。

「暑い」「しんどい」「雨はふる」「そんな中何も考えられない。」

ただひたすら歩いたり走ったりしている。

コンテナの中もきつとそうだったろうと思う。  
暑くてもひたすら何も考えずに生きようと思つただらう。

でも、死んでしまった。生きてる私たちには答えが出なくても考えつづけていく事ができる。

そのために私は毎年、夏、走る。  
小佐木島は本当におおいきつと毎年夏はここにいらるだろう。

そんな長い年月がかつても考え続けるそれは、私の気持ちに問いかける事でもある。誰かに伝える事でもある。

# 私のPeace Run

なつき (16)

高1のこの夏、初めてピースランに参加した。最初は、人見知りも激しい緊張していたけど、姉がいてくれたのはもちろん一番の支えだったし、みんな気軽に話してくれて、ちょっとした安心した。別に参加したとは何気ない気持ちだったけど、この夏の5日間はずっと、自分の中で大きくなったと思う。

夏休みも楽しく過ごして、2学期が始まった。始業式の日、バスの中でお腹が痛くなって、学校に着くなりUターンして家に帰った。2日目からは、お父さんかお母さんが学校まで、車で送ってくれるようになった。今は別に学校は楽しいと思う。でも、充実している気はしない。毎日、何しとんやろって思う事がよくある。学校で友達と楽しく笑いあっても、帰りたい、とかそういう気持ちは変わ

らない。でも親は反対するし、辞めた後どうなるかなんて、よくわからない。

フリースクールの子達はどうやましい。辞めた後、どうするか。学校なんて行かなくてもちゃんと道はひらけてる。でも、私にはそれができるかさえわからない。こんな私には、親の言うとおりに死にものぐるいで、今の学校を卒業するしかないだろう。

でも、私は色んな道を歩いてみたい。学校をやめて、自分の思うように一度やってみたい。夜遊びに行くことなんかで、親に怒られ反発し、ちゃんと話そうともしない私だけ。

たしかに学校を辞める事には不安もいつばいあるし、何もわからない。姉の生き方を私は尊敬してる。私はみんなが進む道と、同じ道を進むことしか生き方がわからないから。姉のような強い心が私にもほしい。でもフリースクールの人々は、その強い心を持つてると思った。そんなみんなの中にいると、私はちよつと

カタミがせまかった。私もいつか強くなれるだろうか。自分で自分の生き方を見つけて、進めるようになっていけるかな。わからないけど、今までの、遊びたい、遊べばいいって考えが少し変わって、真剣に前を見ようとするようになったのは、初めてのピースランでフリースクールのみんなと過ごして、その短い5日間の中で、ちよつとだけ強くなった気がするからだろうか。





## 教育実習体験記

吉田奈津子

大学で舞台芸術を勉強するつもりが、ひよんな事から歴史を勉強する事になって、早三年。せっかく取れるならとつてみるかと教職免許過程を受講した。最初からわかってた事だったが、ついに其の時がやってきた。そう、教育実習である。

中学時代は不登校で、高校が通信制だった為、高校に実習に行く事は難しく、必然的に私は中学校に教育実習に行く事になる。殆ど行っていない母校の中学に実習で行く事になるとは思ってもみなかったが、行かなければ教免が取れない為、行くしか無いのである。

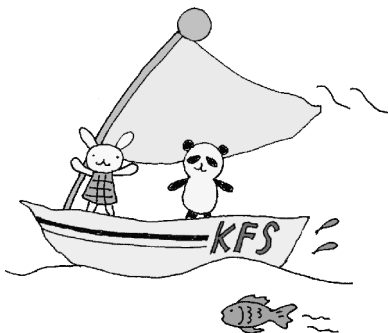
まずは詳しい説明を受ける為に学校に電話をする、今回の実習生は3人で、他校の卒業生が音楽で一人、中学時代、生徒会長だった男の子が私と同じ社会科で実習に来ると言う。よりによって元生徒会長と一緒に、と気が重くなり、その反面、

対照的な実習生が集まったもんだなあ、としみじみ感じたりしたのだった。

なんだか行きたくないなあと思いつつも、何故か私はがやってくる、何故か私は全校朝集で挨拶をしなくては行けなくなったり、学年集会で中学生時代の思い出を話してくれと言われたり、授業実習をこなしたり、H・Rを少し任せたりと、ほぼ体験したことのない事を生徒の前でなんとかこなしていたら、あつという間に三週間が過ぎていた。

三週間の短い間だったが、先生をやってみてしみじみ思ったのは、先生って大変だなあ・・・と云う事であった。学校に行っていないかつ頃、先生に対して色々な事を要求していた気がするが、いざ先生をしてみると自分が思っていた事を実際にするのは大変難しい事なのだ。と痛感した。体験してみないと分からない事は沢山あるものだ。今回、実習に行つて、学校と云うものを以前とは違う立場から見られたのは本当に良かったと思う。

そう思えた事だけでも三週間の苦勞は報われたのではないかと自分で勝手に思っている。



ごあいさつ

倉橋扶美

またしてもフリースクールの皆さんに遊んでもらうてお世話になってます。フリースクールに来てみて、皆がとてもしっかりしているなと思いました。24歳にもなっているのに、今でも私の方が頼りないし、自慢出来るような特技もないので、すごいなと思うことが多々あります。まだまだフリースクールの事も全然わかっていないので、これから皆にいろいろな事を教えてもらいたいです。どうぞよろしくお願いします。



私が神戸フリースクールを知ったのは高校生の時で、3年生の時に一度だけ遊びに行かせてもらいました。その時は、生徒の皆にいろいろな遊びを教えてもらいました。そして、今年の9月からはスタッフとして、

## 『ちっちゃな仲間の でっかい行事』

おくちゃん

2003年8月4日(月)から9日(土)まで、広島の小佐木島を最終目的地に、今年もピースランが開催されました。年齢差、体力差があるなか、みんな気遣いあって、楽しく完走できたのではないのでしょうか。

はじまりは8月4日、午前8時。神戸ハーバーランド集合。前後FSに宿泊したメンバーをはじめ、みんな元気な姿をみせるが、なぜか道に迷ったみかちゃんは、既に走り疲れた様子で9時ぎりぎりの到着だった。ともあれ、予定通り午前9時には神戸を出発、ランニングが開始される。初日は、神戸↓須磨↓明石↓姫路のらんちゃん邸へ、という日程。須磨では昼食後、海に足をつけて遊び、踏切に花を捧げて石坂さゆりさんの追悼式が行われた。その後、

大蔵海岸の温泉を目指し、休憩を数回はさみながらランニングを再開するが、その間、オグが途中の休憩所に財布を忘れて、尊還のために来た道に戻ったりしていた。入浴後、車と電車でそれぞれらんちゃん宅興宗寺へ向かい、荷降ろしなどをすませ、夕食が開始されたのが午後8時頃。夕食後、らんちゃんのパパが影絵と人形劇を披露してくれまして。そして、その影絵をみている最中、みかちゃんが蜂に刺されて、左手がばんばんに腫れてしまった。みかちゃんのピースラン初日は、ちよっとアンラッキーだったかも。

8月5日、ピースラン二日目。姫路↓風のモニュメントの広場で昼食へ、赤穂野外活動センターへ、という日程。この日は午前中の設定距離が長く、スピードにばらつきがでたので、女の子はみんな一時車に乗り、ウー普をした。昼食時、スイカがでるが、メイちゃんにはスイカが嫌いで、先生に強制的に食べさせられてました。この日、生まれてはじめて食べることでできたのだそうです。食後、食事班は野外センターに向かう。そこでは、メイちゃんとオグが買物担当、薪の注文もしてくれる。洗濯は、みかちゃんとえりなちゃんが5、6回洗濯機をまわしたそう。その他のランニンググループは、「堀市」から「アリス」の工場のそばまで走り、円山海岸でしばらく遊んで、この日のランニング終了。到着すると、ごはんの準備ができていて干された洗濯物で部屋は「満艦飾」になっていた。夕食後、キャンプファイヤーをする。れつくんが一番手で芸を披露してくれるが、その後みんななかなか芸が出せず。ハンカチ落としをして、花火をして、10時に終了。

8月6日、ピースラン三日目。赤穂から日生のファミマまで車で移動↓兵庫と岡山の県境↓倉敷駅、という行程でランニングしました。この日の倉敷駅で最後のチツちは、前日に引き続き、ハイペースの長袖ジャージで一番に駅に到着。





8月7日、午前9時にYHを出発して、福山のフリースペースを目指す。走りづらい道だったため、この日の午前中は30分程度走っただけで、ほとんど車で移動。休憩場所の一部の人たちはセルフサービスの讃岐うどんを早めの昼食にしました。休憩後、トンネルを抜けた地点にあるショッピングモールまでランニング。とっしーはひどくなつたまめの手当てをここでしていた。また、昼食などをとり、再び車で福山市に入る直前のコンビニまで移動。走りたい人はランニングを再開し、その他の人たちはそのまま車で銭湯に向かうことに。途中、数人が車で拾われ、走者交代したりしながら、午後4時過ぎるが全員「ゆらら」に到着。入浴後、ドライブで福山FS『旅遊』に向かう。一方通行で、目の前にある目的地になかなか辿り着けなかった。福山FSのメンバーは男の子2人、女の子3人、まだ少人数ですが、スペースはとても広かったです。用意してくださった力

レーとサラダをいただいた。午後11時頃、就寝。8月8日、昨晚は雨だったが、起床すると上がつていた。午前9時半に出発。車を駐車していた河原まで歩いて、そこで準備体操を体操中、先生が腰を痛めてしまう。この二日後、車で神戸に帰る先生は、痛みでギアチェンジができなくて助手席のメイちゃんがつつと操作をしていたそうです。5日目の日程は、福山↓尾道↓三原。三原駅がランニングの最終地点となる。尾道まで7km程度走って、尾道駅周辺で自由行動、各自昼食をとる。この時点から雨が激しくなりはじめるが、午後1時半、全員乗車して走りやすい通りまでで、最後のランニング開始。約10km、三原駅を目指す。



午後4時頃、全員完走、ここで、あやちゃんとはお別れでした。夕食はちゃんこ風なべを、水本ママの指導下、テラ、れつくんなど男の子が中心となつてつくってくれました。食後、かべにくぎを打ち、洗濯物を協力して干す。お酒を飲む人たちは二次会をはじめて、午前2時から3時頃、全員就寝。8月9日、この日がピースランの最終日でした。台風の影響で波が高いことを懸念したが、朝からよく晴れて、無事小佐木島に渡れることに。午前11時半出航。島に着き、15分程度歩いて、『風の子学園』のコンテナの前で追悼式を開始。千羽鶴と、喫煙者はたばこを線香の代わりにおさなえしました。初参加者のために、先生が事件の説明を。たばこを吸った体罰としてコンテナに入れられた14歳と15歳の少年少女が、50度を超えるコンテナのなかでのどをかきむしって死んでいったとこのことが、衝撃的でした。この日も、コンテナの屋根はと

ても熱かったです。一分間の黙祷の後、海辺に移動、昼食をとり、海で遊びました。午後5時10分の出航を待つフェリーの上から飛び込んだりして、きれいな小佐木島をみんな満喫できたと思います。

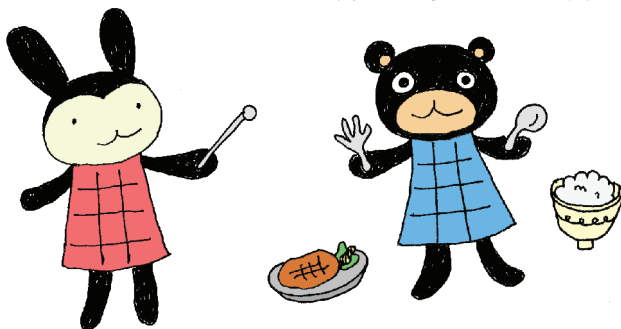


イラスト ちくりん

通信費カンパ  
ありがとうございました

羽下 大信  
小野 洋  
柴垣 六郎  
久下 貴司  
増井 眞樹  
山田 育子  
守屋 哲  
藤田 穂  
田木 郎  
坂口 義  
光本 孝  
葉啓一  
橋保  
野圭子

(敬称略)

たまには、自分を見つめてみたいと思います。

(70前) 香川あやこです。(性格) 変な子。あと単純バカ。  
(最近好きなモノ) 人では、野いさくら。食べ物では芋けんぴが好き。  
(学校に行かない理由) 怖いから... だと思ふ。  
(将来の夢) 声優さんになること。人に認めてもらうこと。  
(苦手なモノ) 女子高生。(これからやりたいこと) 絵を習うこと。  
HPをつくること。舞台(演劇)なんかもやりたいし。  
コミケの出店も出来たらいいにゃ〜。  
(座右の銘) 悩みは自分の中にある。

以上。こんな感じですかね。。 どあ!

## イベント案内

### 第十回子午線ウォーク

日時 10月25日(土)26日(日) 一泊二日  
集合 明石天文科学館前 AM 8:00  
参加費 2000円 (宿泊費+5000円)  
飛び入り参加歓迎!!

### 稲刈り(淡路一宮町)

日時 10月13日(日) 雨天中止  
集合 明石タコフェリー前 AM 9:00  
持ち物 作業の出来る服装 お弁当  
参加者大募集!!

## 集会案内

10/11(土) 『不登校・引きこもりへの理解』 ゲスト 金香百合  
14:00~16:00 <県民会館7F>

10/18(土) 親の会 14:00~16:00

11/4 (火) 『不登校から学ぶ』  
17:30~18:30 <ボランティアプラザセミナー室:神戸クリスタルタワー10F>

11/28(金) 『不登校という選択』  
14:00~16:00 <明石男女共同参画センター:アスピア明石>

11~12月(4回)にメンタルフレンド養成講座をします。参加してくれるお兄さん&お姉さん大募集!!

HOMEPAGE

発行/ 神戸フリースクール

WWW.FREESCHOOL.JP/KFS

お問い合わせ・TEL & FAX 078-366-0333

E-MAIL

住所・兵庫県神戸市中央区下山手通8丁目8-10

TOKASYA@HOTMAIL.COM